# 馬耳東風

興味をそそる物を見るとつい買いたくなる．いつの間にかそれらが積もり積もって，家中を我が物顔に占拠するようになる．対象の違いはあれ，多くの人を悩ますこの蒐集癖からは簡単には逃れられない．切手，焼き物，レコードなど骨董品から現代物，さらに趣味に関する資料まで例を挙げればきりがない．それを投機の対象にしている場合は別として，多くの人がそうであろう趣味で蒐集した物を眺めているときの充実感は何物にも代え難い至福の時である．しかし，それが高じると品物によってはその保管場所のことで頭が痛む．

蒐集を目的としないまでも，いつの間にか増えてしまってその処置に困る物に書籍・雑誌がある．勿論，読みたくて近所の書店で購入した本が主体であるが，中には地方に出張した折に，時間をみて本屋に入って見つけた地方出版もので愛読書となったものもある．

この季節の夜長をじっくりと読書で過ごすことは格別である．中には肩の凝らない美術書など何度も繰り返し目を通している本もあるが，一度しか読んでいない本も沢山ある．

読み終わった本を本棚に納めることでパソコンの記憶装置と同様に頭の中に本の目録が出来上がる．棚に並ぶ本を見ると，一瞬にしてその内容が頭に浮かんだり，気が向けば手にとって再読したりする．これが出来るのもそれが書籍として身近にあるからこそである．

最近では電子書籍の利用者が増加中という．これは携帯端末機を持っていれば何処でも読むことができ，時間を有効に使うためには便利だという．確かにそうであろうが，読書は単に文字を追うだけでなく，色々と想像しながら一時，その世界に遊ぶことに楽しみがある．そしてその世界を詰めた本がいつでも手の届くところにある．これが読書の醍醐味であり，蔵書が増える理由と思える．活字世代に育った自分にとっては電子媒体で供給される書籍には馴染めないし，文化が衰退するのではないかと危惧する．

普通の家では床はそれほど強くはない．通常の90cm幅の本棚であれば3本も壁面に沿って並べるとその重みで前を歩く度にガラス戸が音を立てる．周りからは「残しても古紙として処分されるのだから，自分の手で身辺整理をしておいたら」などと揶揄される．雑誌などは必要な頁を切り取ってファイルしておくことが多いが，それとて年と共に貯まってくる．心機一転，本棚を整理し，一旦は廃棄と決断しても，行き先は物置であり，そこで又，廃棄まで時間が掛かる．挙げ句の果て「物置を増設しようか」などと考える．一気に廃棄すれば良いと思うのだが，悲しいかな，なかなか決心がつかない．これを解決する良い方法があれば教えてほしい．

（青）